

血対ID	受理日	番号	感染症 (PT)	出典	概要	新出文 献
70128	2007/10/ 24	70647	異型ク ロイツ フェル ト・ヤコ ブ病	J Vet Diagn Invest 2007; 19: 142-154	米国で牛海綿状脳症(BSE)と診断されたウシ2例に関する報告である。症例1では脳幹の門領域に海綿状変性及びPrPScの沈着がみられたが、症例2ではPrPScは検出されたが、明らかな空胞状の変化はみられなかった。ウェスタンブロット法で、症例1は典型的なBSE分離株と似た分子的特徴を示したが、症例2のPrPScは高分子量に位置する異常な電気泳動パターンを示した。両症例のプリオン蛋白遺伝子の配列を決定したところ、ウシについて過去に報告された配列の多様性の範囲内であることが示された。	35
70128	2007/10/ 24	70647	異型ク ロイツ フェル ト・ヤコ ブ病	J Virol 2007; 81: 4305-4314	無細胞PrP変換法を用いてシカの慢性消耗性疾患(CWD)分離株に対するげっ歯類の感受性を調べたところ、一部のげっ歯類が感受性を有することが示唆された。これらの結果はCWD罹患シカの脳組織をげっ歯類の脳内に接種する実験でも確認された。シリアンゴールデンハムスターにおけるCWD分離株の継代では、平均潜伏期間が異なり、明らかな神経病理学的パターンを示す分離株を特定した。CWDは一部のげっ歯類に伝播し、少なくとも2種類のTSE分離株が存在する可能性が示唆された。	36
70128	2007/10/ 24	70647	異型ク ロイツ フェル ト・ヤコ ブ病	PLoS ONE 2007; 5: e435	ハムスター順応性263Kスクレイパープリオンで土壌を汚染し、土壌中PrPScの存在をウェスタンブロットで、生物学的活性および感染性をハムスターバイオアッセイで分析した。同プリオンは少なくとも29ヶ月以上土壌中に存在し、汚染土壌または土壌の水性抽出液を摂餌したシリアンハムスターにおいてスクレイパーが誘発された。また土壌中PrPSc検出にはPMCA (protein misfolding cyclic amplification)反応が利用できることが示唆された。	37
70107	2007/09/ 21	70537	異型ク ロイツ フェル ト・ヤコ ブ病	PLoS Pathogens 2007; 3: 659- 667	経口的又は非経口的にスクレイパーを投与したハムスターの皮膚にPrPScが沈着するかを調べた。経口摂取したハムスターでは発症前にPrPScが検出され、発症時にはPrPScの蓄積がみられた。PrPScは皮膚の角化細胞ではなく神経線維に局在し、皮膚におけるPrPScの沈着は感染経路やリンパ組織感染に依存しなかった。神経が介在する遠心的な皮膚へのプリオン拡大が示された。更に、スクレイパーに自然感染したヒツジを調べたところ、5頭中2頭の皮膚検体中にPrPScが検出された。	38
70165	2007/11/ 29	70768	異型ク ロイツ フェル ト・ヤコ ブ病	Prion 2007; 2007年9月26- 28日 Edinburgh P04.51	73歳の受血者で生前に特定されたvCJDの非典型的症状の報告である。患者は1997年12月に輸血を受けたが、供血後にvCJDを発症した供血者由来の赤血球製剤であった。輸血から6年後、受血者は疲労及び集中困難を訴えたが、神経学的検査及び脳MRIは正常であった。この6ヶ月後に神経学的症状が発現し、進行したが、血清学的検査は正常であった。MRIでは視床背側核全体の顕著な信号変化が示された。vCJDの長期潜伏期間と無症候状態は、重大な公衆衛生問題を提示する。	39
70112	2007/09/ 28	70553	異型ク ロイツ フェル ト・ヤコ ブ病	Proc Natl Acad Sci 2007; 104: 10998- 11001	アミロイドを含有するフォアグラにアミロイド促進因子(AEF)活性があるかを調べた。市販のフォアグラから抽出したアミロイドA蛋白含有フィブリルを、二次性アミロイドーシスを起こすトランスジェニックマウス9匹に静脈内投与したところ全例で、また経口投与した場合は8匹中5匹でアミロイドの組織沈着が見られた。一方、対照群では全く組織沈着は見られなかった。加熱によりフォアグラのAEF活性は弱まったが、消失しなかった。アミロイドーシスは伝播性で、プリオン関連疾患の感染性と類似する可能性がある。	40